2024年12月21日作成

ドキュメンタリー映画 55分

琉球弧を戦場にするな

大手メディアが伝えないなら、
私たちがやるしかない。

●主催：敵基地攻撃を許さない！大軍拡・大増税反対実行委員会

●共同代表
浅川雅己　札幌学院大学教授
中島光孝　弁護士

監督／藤本幸久・影山あさ子
撮影／中井信介
製作・著作／森の映画社

上映会
&
感想交流会
参加費
500円

とき：1月18日（土）午後6時半開始　午後6時受付開始・8時半終了予定

ところ：札幌市中央区民センター
視聴覚室
（南2条西10丁目）→地図裏面

連絡先（事務局　牧口）
011−631−7604
makiguti@jcom.home.ne.jp

私たちが沖縄で撮影を始めたのは2004年。辺野古では、住民たちがカヌーと身体一つで米海兵隊の新基地建設のための作業を必死に止め続けていました。

20年後の今、辺野古の新基地はできないまま。しかし、九州の南から台湾にかけて弓なりに連なる琉球弧の島々は、自衛隊の基地だらけとなりました。

2016年に与那国島に陸上自衛隊のレーダー基地がつくられ、沿岸監視部隊が配備されました。19年には宮古島と奄美大島に、23年には石垣島にミサイル基地がつくられました。沖縄島にもミサイル部隊が配備されました。

すでに基地のある島々も、基地の拡大が止まりません。台風から島を守る貴重な湿地やリーフをしゅんせつし、自衛隊や海上保安庁が自由に使える巨大な港をつくる計画も進められようとしています。

日米共同の軍事演習は絶え間なく続けられ、野戦病院の設置や負傷者の搬送の訓練も行われています。訓練には遺体の仮埋葬もあり、宮古島の公共施設には遺体の収容袋が設置されています。

地図で島々の場所を見てみてください。仮想敵国・中国に対する最前線基地を琉球弧に構築するという戦争準備、戦争計画の形がくっきりと浮かび上がります。計画されている次の戦争は、日本の国土を戦場に、核保有国・中国と対峙する戦争。その主戦場が琉球弧なのです。

与那国町では有事の際、住民に避難費用を支給する条例が2022年に議会で可決されました。糸数健一与那国町長が、その記者会見で「各自でなんとか生き延びてくれ」と語ったのは衝撃的でした。

島々の軍事化の様相も、住民の危機感も、休みなく続く日米の軍事演習も、大手メディアは伝えません。伝えないなら、私たちがやるしかありません。この「琉球弧を戦場にするな」は、馬毛島から与那国島まで、琉球弧の現在を撮影し、5月20日に完成させたものです。

戦争を止めるのは、戦争が始まる前、今しかありません。そして、戦争を止めるのは、本気の意思と行動です。市民一人ひとりの行動が未来を救う希望です。この希望を大きなものに変えていくために、この作品を作りました。

ぜひ、上映会を開いて皆さん自身が「伝える人」になってください。心からお願いします。（抜粋）

ドキュメンタリー映画監督　影山あさ子

2004年から沖縄の現場で取材を続ける。辺野古新基地建設の抵抗を描く「圧殺の海」（2015年）、市民を機動隊が制圧した高江を描く「高江―森が泣いている」（2016年）、陸自ミサイル基地建設に抵抗する人々を描く「宮古島からのSOS」（2018年）、ほか多数。